

リモート座談会

テーマ: 新型コロナ禍の下でのリモート授業

日時: 2020年8月13日(木)

10:00 - 11:00

参加者:

4年生

・チョウテイカン(趙鼎涵)さん(以下趙)
東京大学教養学部(座談会進行)

・チアフアミンさん(以下チア) 東京外国語大学言語文化学部

・高橋優太さん(以下高橋) 日本大学生産工学部

3年生

・ブイヴィエトティエントウーさん(以下ブイ) 横浜国立大学経済学部

・メドラノエリック(以下メドラノ)さん 千葉工業大学情報科学部

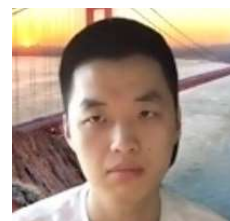
(事務局) 本日はお集まりいただきありがとうございます。

今年は新型コロナウイルスにより学生生活が様変わりしました。リモート授業について生活状況報告書などでマイナスに捉えたりプラスに捉えたりと様々です。コロナ禍後もリモート授業が行われる機会は増えてゆくものと推察します。そこで、優秀な皆さんがどのように感じ考え行動し過ごしてきたのかを公開していただき、ホームページ上にまとめて奨学生の参考にしておきたいと考え、座談会を企画しました。

「新型コロナ禍の下でのリモート授業」をメインテーマとし、リモート授業での課題(メリットやデメリット)をどう克服したかに

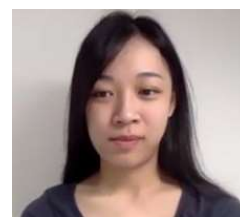
ついて皆さんの考えをお聞かせください。亀井理事長、糸長専務理事、大中事務局長にはオブザーバーで参加いただきました。

(趙) では、困ったことや戸惑ったことなどを話してゆきましょう。まず私から。カメラオフだと相手の反応が分かりにくく、論点や歯ごたえなどがわからないことがありました。授業以外では母国の家族や友人とのコミュニケーションが増えた一方で日本語を使う機会が減り、いざ日本語を使おうとすると少し噛むことがありました。

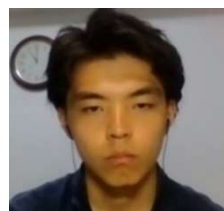


(チア) オンデマンドの授業のメリットは、こちらのスケジュールに合わせて受講できることです。

就職活動がスムーズにできました。一方、最終学年で友人と会えず寂しかったです。



(高橋) リモート授業では研究に必要な実験などができず、卒業研究が初期段階で足踏みし、やる気を削がれたことがありました。しかし、他の論文などを調べる時間が取れて知識を深められたことは良かったです。

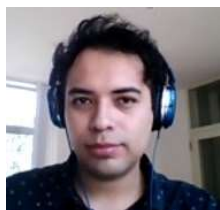


(ブイ) データ分析に必要なデータを集

められず、机上モデルでの分析に留まりました。リモート授業が急に始まったせい
か、一方的、資料の説明が不十分などで趣旨がよくわからない授業もありました。また、ルームメイトがいてリモート授業に集中できないこともあり
ました。メリットは、試験がレポートになった科目が増えたことです。これまでは試験のために記憶したことを試験が終わると忘れることが多かったのですが、レポート作成ではより理解できるようになりました。



(メドラノ) その場で先生や友人に質問したり学生同士で教え合う機会がなくなりました。そこで自分のレベルを把握して競い合う気持ちが意欲になっていましたが、リモート授業と独学では自分のレベルを把握することが難しくなりました。



(趙) 皆さんから課題などを聞きましたが、このような感じですね。

- ・友人に会えない、人とのつながりが弱まる
- ・実験やデータが取れず研究が進まない
- ・やる気が出ない、集中できない
- ・一人でどのように勉強するのか

(趙) それでは、どのように克服したかについて、私から話します。

カメラオフで授業を受けているといつも机の前にいる必要はなく、やる気に影響しました。一方、ゼミ型の授業では発言を求められることも多く緊張感がありました。時間や授業料を無駄にしないよう緊張感を持って臨むことを意識していました。

(ブイ) やる気や集中力の低下を克服しようとしている段階です。一方的な授業では面白くないので、興味がある分野を調べてやる気スイッチを入れています。

(チア) リモートに不安や孤独感もありましたが、大学がリモート授業を取り入れる際にトライアルで自己紹介やクイズを取り入れてくれ、対面以上に互いのつながりを意識することができました。

(高橋) 研究が進まず悶々としていましたが、大学に入学した理由を突き詰めて考えると勉強することだと気が付きました。勉学以外の学生生活の楽しみがなくなったことで深く考える良い機会になりました。研究に取り組めず授業もない中で少しでも知識を着けたくなりました。自主自学が大学の醍醐味であり、本来の大学生の姿であると思います。

(趙) 同感です。自分も同じ経験をしました。

(ブイ) 気になることや印象に残った授業はありますか

(高橋) リアルタイムよりオンデマンドの

方が良いと思います。オンデマンドの授業は受講時間の制約がなく、何度も再生もできます。

(ブイ) 留学生にとって何度も見直せるオンデマンドは便利です。一方でリアルタイムの授業では、先生とインタラクティブできるのが良い点です。理解できない部分があると、そのままになるので、予習復習が必須です。積極的な参加が求められ手が抜けませんがその分力がつくと思います。

(高橋) ビデオでは学生の熱量が伝わりにくいですね。

(ブイ) 対面授業では学生の質問に答えることから話が広がった先に良いことを聞け、理解が高まります。また、授業後の質問などで先生との距離が近づくと感じます。

(趙) リモート授業では先生との距離感などもつかみにくく、初めて受ける授業などでは、最初戸惑った面もありました。色々、意見をいただきましたが、オンライン授業は今後も続くと思われ、ネガティブな面もポジティブな面もありますが、早く自分のペースになじませたいと思います。皆さんから何か気になることがあればお話してください。

(ブイ) 来年の就活に不安があります

(亀井) 就活は学生が企業を選ぶチャ

ンスでもあります。企業が留学生をレベルの高い通訳として見ているのか、実務社員として見ているのかを見極めてください。

今回のテーマに「課題」とありますが、「課題」と「問題」を正しく理解することが大切です。問題はあるべき姿と現状との乖離で、課題は問題を解決するためにすべきことです。今回の座談会で例を挙げると、分かりにくいリモート授業の問題は「準備不足」で課題は「分かりやすくするために必要な準備をすること」です。こうすることでやるべきことが見えてくるはずですよ。

(事務局) 今日は皆さんからとても良いお話を聞けました。制約があるからこそ見つけられることがあるという指摘は私自身にとっても刺激となりました。本日はありがとうございました。